

2023 ギラヴァンツ北九州サポーターカンファレンス議事録

2023年5月31日(水) 19:00-20:00

出席者： 株式会社ギラヴァンツ北九州

代表取締役社長

石田 真一

スポーツダイレクター

小林 伸二

ギラヴァンツ北九州サポーター 86名

議事録は、できる限り正確に記録されていますが、以下のルールに基づいて加筆や添削をしております。

- ①本来の意図から逸脱したりする可能性のある部分は割愛いたしました。
- ②特定の個人、選手、団体に関わる内容は先方にご迷惑になる可能性がある部分は、割愛いたしました。
- ③重複する内容やわかりづらい表現など編集時に加筆いたしました。

代表挨拶

石田：本日は平日の遅い時間にもかかわらず大勢の方にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。今シーズンは第11節を終えた現時点（5月31日時点）で1勝3分け7敗の20位という結果となっており、この事態を非常に重く受け止めております。皆様には多大なるご心配、そして悔しい思いをおかけしておりますことを、心よりお詫び申し上げます。今期はJ2復帰を目標に掲げてシーズンをスタートいたしましたが、現時点でこの目標の達成は極めて厳しい状況となっております。一方で、皆様ご承知の通り今季からJリーグによる制度変更に伴いまして、J3とJFLの入れ替えが始まります。当クラブといたしましては、JFL降格は絶対に避けるべく、打てる対策は全て打って、J3への残留を最優先に取り組んでまいります。具体的な対策といたしましては7月21日から夏に開くウィンドーでの選手補強が中心となります。補強の方向性、考え方を含めまして詳細につきましてはスポーツダイレクターの小林より説明をさせていただきます。

小林：みなさんこんばんは。いつも本当に温かく共に戦ってくれて感謝しています。雨の日も風の日も共に戦ってくれて本当に感謝しています。ただ、その思いに我々が成果として皆さんにお伝えすることができないというのはすごく残念に重く考えています。日頃、選手は真摯にそういう状況に向かいながら取り組んでいます。ですが、ここ11ゲーム終わった中での1勝3分け7敗、厳しい順位です。ただ、この現状を皆さんと共に、いろんなことを意見交換しながら乗り越えていくということはすごく大事なことです。残り27試合あります

が、「もう 27 試合。」ということでもあります。そういう危機感を、今日選手に話をしました。「まだ 27 ゲームあるの。」という感覚を持っているかもしれないですけど、もう佳境だという思いで選手に伝えました。練習は積極的にやってくれてるんですね。そこはすごく大事にしたいスタッフとの結びつきも悪くはないので、変化を捉えながら進めていきたいと思っています。

では実際何が起きているんだ？というところですが、今シーズン、サッカーの原点というのはなんだ？という時に、やっぱり走ることだなということ。走ることに真摯に向き合うということ。この 2 年間、J1、J2 で上手いんだけど出てない選手を借りながらやってきました。良い選手が育つと、チームには置きたいんだけど、返さなくちゃいけない。それであれば、自前の選手を自分たちで育てる、というところが今シーズンです。走るところでやはり若い選手がいいだろうということで、そういう選手を集めました。5 年前の時と同じです。自前の選手なんです。負けずに今年は若い選手で走るゲームをしよう今シーズン入りました。ただ、走れるようになっているんですけど、皆さんも見て分かるように攻撃・守備での紐付きというのがまだできていないのが事実です。走るのをベースに、今後我々はトライをしていきたいというふうに思っています。今から暑い夏に向いても、その走りをベースに攻守の紐付きがあると戦えると思っています。

攻撃についてお話をしたいと思います。5 年前から、前線から相手のボールを奪うということを攻撃に打ち出していました。当時のギラヴァンツは、怖いぐらい前から行って「これ大丈夫なの？」というのを少しずつ紐付けて行きました。それをぜひ体現したい、経験をさせたいということで今トライをしています。そうすると、当然相手の陣地でサッカーをするわけですから、ボールを奪うとショートカウンター、決まりごとがあった中で攻めて点を取っていかなきやいけないですね。要は、ポケット（ペナルティエリア内の角）を狙ったり、バイタル（バイタルエリア）や逆のスペースを狙ったり、ボール保持者に対して 4 人ぐらいが繋がった意識というのは、やはり要るんですね。そういうのがなかなか今まで紐付いてなくて、一生懸命なんです。それを少しずつほぐしながら、紐付いていくというサッカーをやるようとしています。前から行くので、一番失点を食らっているのは DF の背後です。前回（Y.S.C.C. 戦）も相手のキーパーから来たボールを、キーパーと DF の連携が悪くてやられました。ああいうプレーを見たことないです。それだけ硬くなっている、勝利に飢えているというのがゲームにああいうふうに出たのではないかなと。

最後に、そう言っても今必要なことは補強です。先ほど社長からも話がありましたように、7 月 21 日から 8 月 16 日の間にウィンドーが開きます。そこでは、外国人を含めて、必要な選手、センターフォワード、センターバック。センターフォワードについては今 3 人違うタイプの選手がいますが、もう一枠追加して四人体制にします。もう一つ、センターバックはいまの若い選手で伸びてほしいんですけど、どうしても怪我が出たりするので、そこは必要だなというところで補強をします。ウィンドーが開く前ですが、今も実はいろんな選手、外国人の紹介があつたりしながらピックアップしたり映像を見たりしています。外国人を獲

らないというわけではなくて、必要であればどんな選手も獲ります。

皆さんから色々な意見が出ているのは聞いています。この場で皆さんの質問には真摯に答えたいですし、いろんな意見を聞きたいと思います。共に繋がって共に戦っていきたいというふうにごく思っていて、僕は北九州がすごく好きです。どうぞ1時間程度の時間ですけど、よろしくをお願いします。

質疑応答

・質問者1

本日はこういう場を設けていただきありがとうございます。補強してくださるということで非常に嬉しく思っています。今まで育てることは成功していると思うんですけど、そういった育てた選手をとどめることについてあまりうまくいっていないとか失敗しているとか、どんどん出て行っちゃってると思います。今年もせつかく育った選手がどんどん出て行ってしまうようなことになると、戦略ダウンになるし、これからバンディエラを育てていくためにもあまり良くないことだと思います。この辺りどう考えていらっしゃるか意見をお伺いしたいと思います。よろしくをお願いします。

小林：はい。大卒、高卒の選手ともに複数年契約をベースに考えています。大卒の選手の話をしませぬ。今後の可能性があるとして給料を上げて複数年にします。ところが、なかなか応じてくれない選手もいるんです。それは、個人的に選手は納得してくれるんですけど、ほとんどの選手に代理人がいるんですね。そうすると、評価が高くなったということは移籍市場に乗るといことにもなるので、「契約更新をちょっと待って。」ということで移籍市場を探さなすね。そういうところでなかなか折り合いがつかない。例えば3年育った選手と話をして、かなり高い給料を出しても、やっぱり複数年にしてくれないんです。なかなかこれは難しいところがあります。要は、契約が残るとそのお金をチームに払って選手が出ていかなきゃいけないので、移籍市場が狭くなるという発想を持つんですね。必要な選手は必ず移籍金出してでも獲るんですけど、うまく折り合わないんですよ。ですから、今そういうところはずいぶん苦勞をしているというところが一つ。

もう一つは、魅力。チームが選手の伸びと同じようにカテゴリーをあげていければいいんですけどなかなかそういうわけには行かず。我々がJ2のときにJ1へ何人も移籍がありました。クラブの伸びが間に合いませんよね。だから、そういうふうになると、選手寿命が10年ぐらいであれば、もう一つレベルの高いところでチャレンジしてみたいという話も出てくるんですね。個人昇格というのは今まではなかったんです。チームに来てチーム伸びたので、そのチームで貢献する、そういったチームに長くいるという考えがリーグにもう無いというところ。実は今の社会と同じかもしれないですね。サッカーもそういうところがある。

今回も大卒が入っているので伸びた後もやはり残ってほしい、人間関係的に良い関係でいたいんですけど、当然ビジネスですから。そうなるとなかなか難しいですね。ですから、やっぱり出て行かないようにチームのいろんな部分を伸ばして、もう一度帰ってきてくれるような魅力的なチームであってもいいと思うんですね。出た選手がもう 1 回帰って来たいようなチームに伸ばしていくというのはすごく大事だなと思いますし、今言われたように残したいんですけど、なかなか現状としては難しい。ただ、そういう努力はしようとしているということは分かってほしいと思います。

・質問者 2

今、その補強の話がちょっと出て、選手は育てても出て行ってしまうという話が出ました。例えばアントラーズを立ち上げた時に核になる人を連れて来るとか、あるいはジュビロが常勝してきたときにドゥンガがいたとか、川崎で言えば中村憲剛が引っ張ったとか。やっぱりチームを引っ張れる人間を考えないとフロントの力だけではギラヴァンツという名前がデカくなっていかないんじゃないかなと思うんですね。そういう人を三顧の礼じゃないですけど、拝み倒してでも連れてくるというのが必要なんじゃないかなと。やはりそれを体現する人間を連れてくるしかないと僕は思っています。稚拙な意見ですけども、よろしくお願ひします。

小林：ありがとうございます。本当にそういうことはすごく感じます。過去採用の時、大学のキャプテンだけを獲るとか、そういうリーダーがいなくて年齢の高い人を獲るとか、価値がすごく高い人を獲ってきた経験があります。言われるように我々チームすごく若くなりました。そんな中で若い中にリーダー的な選手がいるとやっぱり目立って、スカウトを受けるんですね。それを持っていかれるわけですね。当然ながら。この3年4年の間でもそういう選手が出ると、やはりスカウトの目に留まって我々のチームになかなか居てもらえないという。そこをお金を出したりして抑えることができればいいんですけど、そこができないのが現状です。で、あれば本当にアントラーズがジーコを連れてきたように、そういう見本となる選手を連れてきて、選手を育てていくという方法はおおいにあると思います。経験をしたことがありますし、自分が現役時代にそういう人が来た思い出もあります。ですから、そういうことをもう一度、チームが若くなったという反面、引っ張る人がいないというのは確かに思っているんですね。ピッチの監督というか、そこに居るとピッチ上で繋がっていく。今の本当の意見でまざまざと感じています。それは今後に向けて検討したいというふうに思っています。ありがとうございます。

・質問者 3

先ほど社長が J3 残留を最優先にとおっしゃいました。朝のテレビ番組の中で小林 SD から、「後半は急激な変化が必要だ。」というコメントをテレビで見ました。今までの戦いというのは J2 に上がれる戦い方ではなかったかと思うんですね。おそらく、もう J2 昇格というのは一応数字があるから掲げるけど、まずは J3 残留だというところが強いんじゃないかなと思います。となると、やはり私としては負けない戦いをさせていただきたいなという思いがあるんです。すなわち、しっかりと守備を固めてからちゃんと攻撃に入っていく。今までのような前に行っていたら後ろにボールを蹴られたり、一発でボールを通してそのままゴールに持っていかれるというような、見ているとすごく「ガクッ」となるんです。J3 で上位とは言いません。中位、10 位ぐらいに入るぐらいの準備をするのであれば、しっかりと守備から入るといった考え方はあるのでしょうか。よろしくお願いします。

小林：まず数字上 J2 昇格は残っていますけど極めて厳しい状態です。降格を考えると、勝ち点 39 必ず取らなくちゃいけないです。今勝ち点 6 です。ということはあと 11 勝しなくちゃいけない。勝ち点 33 取らなくちゃいけないというふうに選手に話をしました。でもそこは最終的な目標ではなくて、そこは絶対押さえるというところから、10 位以内目指そうというところの話までしました。勝ち点 39 をまず取るために、例えばこの前のゲーム。アウェイだし 1-1 で引き分けで OK と思えるかというような考え方ですよ。その考えを持ちながら、まず勝ち点 39 を取る。ですから、固く行って取っていく。その中に今言われたようにしっかりと守ってカウンターが良いのか、今までやっているのがいいのか、というのは考えなくてはいけないと思っています。その戦い方についてはここで解決する問題ではないので、そういう意見もありますということは監督に伝えたいと思いますし、監督もいろんな経験をしていますから、当然そういうことも分かりますし、どういうふうにするかを検討したいと思っています。ありがとうございます。

・質問者 4

今シーズン、ホームでは毎試合スタジアムで観戦させていただいてるんですけど、少し厳しい言い方になってしまうかもしれないんですが、見ていて「良い試合だったね。」という試合が少ないように思うんですね。もちろん勝ち・負けというものもあると思うんですけど、「惜しかったね。」とか「次楽しみだね。」という試合がすごく少ないように感じるんです。点の取られ方だったり、連携ミスで取られちゃったりとかもすごく多かったと思うんです。スタジアムで見ている周りの子供たちも見ていて「あー、またか。」という声も聞こえてくるんですね。失点した時に。やっぱり、勝って勝ちを積み上げて J2 に上がる、J3 に必ず残るといっても大事なんですけど、やっぱり見ていてワクワクするようなサッカーをしていただきたいんですね。少し前の話になりますがディサロ選手、高橋大悟選手がいたときすごく

楽しかったですね。負けても「いや、次絶対勝てるよ。」「また行こうね。」という。それが残念ながら今年はないんですね。失礼な言い方かもしれませんが、「これだったら次も厳しいね。」という考えを持つてるサポーターはいらっしゃると思うんです。その辺はどうお考えなのかなというのを少しお聞かせいただければと思います。よろしくお願いします。

小林 SD：ありがとうございます。過去、レレ（ディサロ選手）だったり大悟がいたりした時代というのは本当にハイプレッシャーで、ボールのところを2人3人行き奪う。そこから、ボールをテンポ良く回す。ワンタッチ、ツータッチでスローインを速くする。フリーキックを速くする。とにかく足を止めない。というサッカーをやっていたので、あの部分のハラハラドキドキとかあったと思います。そういうテンポのあるサッカーをしようと考えています。今年は攻撃も守備も繋がった連携がまだまだ足りないので、昨日も今日も攻撃の紐付けのトレーニングはしています。あと、過去伸びていった選手たちも少しずつトレーニングをして伸びました。レレは、活躍したシーズンの頭はサブでした。サブで途中から出て点を取ったり、トレーニングの中で点を取るの、少しずつスタメンを勝ち取ってあのシーズン得点王になったんですね。ですから、選手ってどんどん伸びていくと思います。そういう切磋琢磨で今から絶対そういうことができるようにしていきたいと思います。選手自身の努力によって伸びていったというところがありますから、そういう指導を今の現場の人にしてもらえるように話をしたいと思っています。

それと、我々はやっぱり楽しんでもらう。このスタジアムに来て大きな夢だったのは、北九州で必ず食事をして帰ってもらおうというのが実は夢で、14時のゲームを16時にできないだろうかとか、3世代で試合を見に来れないだろうかというのは考えた時期があるんですね。だから、そういうふうに繋がるようにするためにも、良いゲーム、負けても次勝てるんじゃないかというようなゲームをしたいです。やっぱり良いゲームを楽しんでもらいたい、喜んでもらえたら幸せだと思っておりますので努力をしていきたいと思っています。ありがとうございます。

・質問者 5

小林 SD に質問なんですけど、ギラヴァンツ北九州は、育成型クラブでもあると思うんですよ。一つの方向として他クラブから選手の補強という方向もあるとは思いますが、先日 U-18 がアビスパ福岡 U-18 に勝っていました。これは個人的にはとても嬉しかったんですけど、アカデミーについての話をダイレクターの方からちょっとお話いただければと思います。

小林：アビスパ福岡 U-18 の A チームに勝ったのは初めてです。昨日ゲームを見たあと、監督と話を、「よかったね。」と。何が嬉しかったかという、アビスパの選手は 90 分の

ゲームの中で何人が足がつったんですよ。ウチの選手はつらなかつたんです。全然違っていたという。延長がなくてPK だったんですけど、その何分かが一人少ない10人で試合をしたんですね。1点取られた後にめげずに2点取り返す馬力もありますし、ずいぶん変わってきている。後ろからボールを丁寧に回すんですけど、ダメな時に前線にボールを蹴る、そこに迫力のある動きでプレッシャーかけるんですね。

今すごく良い状態になっています。週2回練習を見に行ってるんですけど、練習が終わった後必ず彼らは自分の練習をしてるんですね。すごく一生懸命やってくれています。

それと併せて、以前まではU-15の選手がU-18への昇格を選択しないことがありましたが、近年では多くの選手がU-18へ昇格し、活躍しています。少しずつですが、育成した選手がトップチームへ近づいていると思います。

北九州は、従来より良い選手がいます。自分が何十年も前にスカウトに来ていた時も、よく見に来ていました。トップチームとの繋がりもどんどん大きくなっているので、さらにトップチームへ昇格する選手が増えてくるのは時間の問題かなというふうに思っています。

・質問者6

現状、フォワードの選手の得点がリーグ戦で0。天皇杯で高昇辰選手が1点取ってますけど、それ以外はフォワードの選手の得点が0。結局、ストーミングであちこち走らされて、ゴール前で仕事できてないんじゃないかというところが個人的な意見です。特に、こっちがやられるのが縦パス1本でフォワードが走って点を取る。でも北九州のフォワードが走って点取っていくというシーン見ないんですよ。去年もほとんどなかったと思います。なんかコンビネーションにこだわりすぎて、結局点を取ることにこだわっていないんじゃないかなという印象があるんです。それに関していかがでしょうか。

小林：そうですね。今回のワールドカップをみると、9番の選手が点を取っていないのが事実なんですね。サイドハーフとサイドバック。要は後ろの選手が高いところで逆サイドからカットインしているというところが主流になっていて、そこで点を取るということと、日本代表もそうですけど、フォワードが守備をする。どっちかというところを収めるよりも守備をするというところが主流になってきています。

ただそれはちょっとした主流で、当然フォワードにそういう得点チャンスがないのかという無いわけではないです。今年もあるんです。回数が少ないだけで、少ないチャンスを得点できれば、我々のチームにはこの順位にいないです。先ほどレレのお話が出ましたけど、ミスすれば何回もその場面を作ればいいというのをよく言っていました。「1回で入れればいいんだったら、ここに居ないでしょう。」と。失敗したら2回3回4回と怖がらずにそのコースを作る。そこに行かせるような指導をするというようなことは、言えると思います。

なかなかどこでも欲しがるとナンバー9、日本には少ないというところで外国人選手を頼

ることが多いと思いますけど、そういう選手を見つけたり育てたりするというクラブになっていけばいいなと思います。言われているようにそこが点を取っていたら勝ったという試合があると思いますけどなかなかそこまでいっていないのが現実です。

・質問者 7

いろいろ伝えたいことがあるんですが、まず私は2013年にこのギラヴァンツ北九州を応援し「一生ギラサポでいよう。」と決めてからずっと見ているんですけども、柱谷監督の時に降格して、そこから監督が変わってまたJ3最下位というふうになって、チーム全体、北九州全体で絶望を2回味わいました。そこで小林監督に来てもらって夢を見させていただいたと本当に感謝しております。そこからまた次の絶望があって、J3降格になって上がろうと思っても上がれない。それで、今また最下位の状態。ギラヴァンツサポーターとしては、僕たちはこの厳しい状況を何度も何度も味わっているんですね。もう1周目では無いです。2周目3周目4周目の厳しさを味わっています。厳しいことを言うかもしれないんですが、お2人は最悪クビになったら次の就職先を見つけなければいいという状態なんだと思いますけど、僕たちは一生ギラサポなので一生付き合っていくとイケないんです。お2人にとって1周目の2周目の苦しさかもしれないですけど僕たち何周も味わっているんです。こういう経験をしているチームというのは他にあまりないと思います。こんなに乱高下があるようなチームは。普通だったらこれは蓄積していかないといけないんです。同じことを繰り返さないように。だけど、今のギラヴァンツ北九州は同じことを何度も繰り返しているんです。全然改善されていない。そして、先ほど小林さんの方からあったのは、「選手たちが危機感を持っている。」という発言がありましたが今危機感を持たれたら困るんです。僕たちは何年も前から危機感を持って、それでも応援し続けているのに、今更危機感を持たれたら困るんです。僕たちはJ2からJ3に降格する時から「ヤバい。」「どうにかならんかな。」毎年シーズン終わって次のシーズンになるまで、僕たちサポーターの気持ち、ずっと危機感があったんです。なのに、今シーズン危機感を持っています。その言葉を僕は、ないと思います。その危機感というのがサポーターとチームとの差があるんじゃないかなというふうに感じて、私はがっかりしました。そして、ずっとギラヴァンツを見ていくと、ユニフォームにいろんなスポンサーさんがついていて、おそらく胸に入るスポンサーが一番金額が高いんだと思うんですが、ずっとここに入っている企業が変わらない。けど、プロスポーツチームなので、スポーツもプロであって経営もプロでないと困るんですが、この胸スポンサーに新しい企業が入ってくることがまったくなくて、本当にスポンサー営業、もっと大きな金額を出してくれる企業を本当に血眼になって探しているのか。そこに疑問を感じています。北九州市の行政からギラヴァンツ北九州に事業委託などを通じてお金が支払われています。これは市の職員のかたに聞くと他のチームと比べるとやはりこれだけ支えているのは稀だというふうなことも聞きました。これだけ行政に支えられているチーム、プロスポーツチームとして僕は悲しいです。本当にプロのスポーツなのでプロの経営をするのであれば行政

に支えられるのではなくて、プロスポーツチームが町を引っ張って、もっともっと経済波及効果を出してくれるようなチームになってくのがプロスポーツチームじゃないですか。今もしかしたらただのスポーツチームじゃないかなと思うような感じなんです。経営のプロになってほしいです。で、蓄積がなっていない。僕は10年見ていく中で職員の方、働いている社員の方を見ていくと、コロコロ変わっていくんです。入社してもすぐ辞めていく。内部に何か原因があるんじゃないかなと。僕はそう思うんです。内部の会社の中の社員さんとのモチベーションの高さを保つ方法だったり、スポンサーを血眼になってもっと高い金額を出してくれるスポンサーを探す努力、その辺の具体策を教えてくださいたいと思います。お願いします。

石田：ありがとうございます。ご指摘いただきました点について、まずスポンサーに関しまして、クラブの売上のうち半分を占めているのは協賛収入です。その中で多くの割合をバックボードに記載のある企業に拠出いただいています。クラブの取り組みとして、常に様々な企業にスポンサー営業を行っており、最近の具体的な成果としては、これまで長くクラブを支えて下さっている企業に加え、一昨年から新たに2社がトップパートナーに加わって頂いたことが挙げられます。

私たちのゴールは、長いスパンで見た場合ですけれども、J3の残留ではありません。当然J2への復帰、そしてその先のステージを目指してクラブ運営をしていかなければならない中で、協賛収入はクラブの収益を支える一番大きな柱になります。このため、経営上の重要課題として、協賛金額及び協賛企業数を増やすべく、引き続き企業へのアプローチについては重点的に取り組んで参ります。

内部体制に関するご指摘に付いて、理由は様々だと思いますが、これまで何人かの社員の方がクラブを離れたことは確かです。現在、私共は、社員の皆さんにとって働きがいのある、また働きやすいクラブになっていくことを目指し、制度の見直しに着手しています。一つの例としては人事制度の改革、その中では報酬制度の見直しも検討していきます。また、一人一人の社員の成長なくしては、クラブの成長は実現し得ないと考えている中で、個々の成長に資するような研修制度の導入を進めており、これらを一つずつ積み重ねているところで

す。

なお、現在の中期経営計画は2024年までで、来年には、2025年から3カ年の計画を策定いたします。この中で、次の目標に向かった具体的なゴールの設定と道筋をクラブとして立てて参りますので、改めて皆様にお話しする機会を設けられればと思っています。

小林：私は今北九州に来て5年目になります。私はこの仕事を30歳のときから、社員をやめて指導者として1年契約で仕事をしてきました。サンフレッチェ広島に40歳までお世話になった後に20年ぐらい外に出ています。広島を出て、いろんなところで仕事をしています。最高継続年数が4年でした。ギラヴァンツとは既に5年の仕事をやっていて、長くいる

とクラブをすごく愛するんですね。ところが契約が終わると、終わりなんですね。結果が出たり出なかったりというのはありますけど、クラブが好きなのに満了で終わる、クビになって終わるといふこともあるんですね。幸いに今、こういう立場で苦しい中でももがきながら仕事がやれていて、北九州に立派なクラブチームがあるから、そういうこともあると思います。先般、子供が選手と一緒に手をつないでスタジアムに入った時、子供から手を洗いたくないというのを身近で言われた時に、そんな光景がある北九州は幸せだなと思っているところです。そこに、どうにか役に立ちたいというのはすごく思っているんです。良い形で仕事終わりたい、一生するわけではなくていろんな形、いろんな事ができて次の人にバトンタッチしたいというのも分かってほしいと思います。決して逃げているわけではなく、もっと仕事をしたいんだけど、我々の世界で1年契約であるとそういうこともままならないということもあるんです。北九州から私は逃げたくないです。形を作りたいんです。地域に愛されるクラブ、どういうクラブがいいのかというクラブをコンパクトなうちに作れば、いずれ大きくなった時に困らないんじゃないかなというのをすごく思っています。いろいろ模索しながら周りをみんなで世界の情報を見たりして、何か良い方法はないかなと思っています。どうにかこの状況乗り越えて良い形にしていきたい、何回も、何年も前から苦しめられたものを解放したいというのはあります。やっぱり浮き沈みは必ずあると思うんですね。それをどう、こういう状況の時に手を繋いで良いものにしていくかというのは我々にかかっているような気がするんですね。同志だと思っんです。仲間だと思っんです。本当に苦しい思いされていて、「またかよ。」という気持ちもあると思うんですけど、ちょっとでも違う形で変化していければいいのかなと思います。そういうことを思いつつ仕事をさせてもらっているんで、みんなの力を、選手・スタッフ・皆さんの力を借りてここの状況をジャンプできればいいなと思っています。

・質問者8

小林さんからすごく良い話をどんどん聞かせてもらって、気持ちよくなっているんですけど、監督に対してそれがちゃんと、小林さんのその想いだとかが伝わっているのかということがまず言いたいこと。我々サポーター団体は2020年のアビスパとの開幕戦、1万5,000人ほぼ満員の状態でやったあの経験というのがサポーターの方々にも記憶にはすごく残っているんです。試合にも負けました。ゴール裏の空気もアビスパに圧倒されてしまって、客は入ったんですけどどうしても勝ちに繋がる応援ができたかどうかというところからコロナ禍になってしまって、何もできない。それで、ずっとコロナ禍になってから声を出しての応援をせず、ずっと座って見ているだけの状態でレレが決める、大悟が決める、町野が決めるというのを、2020年目の前で見せられて、これから俺たちどういう応援をしていったらいいのか？というのを考えながら過ごしてきました。J3に落ちたときも、J3にいる時だからこそできる応援ってなんだろうと考え、「じゃあウチは何ができるのか。」「大旗2人増や

そうよ。」「大旗ができるんだったら今までできなかったことをやろう。」と、そういう熱意を持って今に至ってます。ウチらの応援というのは、地方にいるサポーターの代表の方も言うんですけど、J2 の中位か上位ぐらいの力は今あります。選手を押せる力やハード、勝つことでお客さんが戻って来ます。アンダーも強くなって、これから先はすごく楽しみだなというのがありますし、ギラヴァンツがすごく強くなってほしいし、どんどん挑戦もしてほしいというのがあるんですけど、小林さん、社長さんが言われた、残留、今年残留絶対にしてください。まずそこは絶対にしてください。プロじゃないといけないところは絶対にあるので、ウチらもプロのチームのサポーターでいたいので、そこはお互い成長し合いながらやっていきましょう。以上です。

以上